

令和5年度 第1回山梨支部評議会 議事概要

- 開 催 日 令和5年7月20日(木) 10:00~11:40
- 開 催 場 所 KKR 甲府 ニュー芙蓉
- 出席評議員 稲田評議員(◎)・小澤評議員・中澤評議員・根津評議員・野沢評議員・野村評議員
(※)・豊前評議員(委任状)・堀内評議員・堀之内評議員(五十音順)
◎:議長 ※:オンライン参加
- 議 題 1. 令和4年度決算について
2. 令和4年度山梨支部事業実施結果について
3. 運営員会等の報告について
4. その他

議 事 概 要 (主な意見等)

議題1. 令和4年度決算について

資料1、資料3に基づき事務局より説明。

(事業主代表)

国庫補助率の16.4%と保険料率の10%は今後も続く見通しなのか。

(事務局)

準備金残高がかなり積み上げられているが、試算では今後単年度収支が赤字になる可能性があるため、準備金を取り崩していくことになると考えられる。そのため、保険料率については中長期的に10%を維持していきたいと考えている。また、国庫補助率については、法律では最高で20%まで認められているが、準備金残高がこれだけ積み上がっている状況であるため、引き上げは難しい。

(学識経験者代表)

山梨支部の医療費の増加率が他支部と比べ高い理由は何か。

(事務局)

山梨の加入者は特にコロナ禍に受診を控えていたため、その反動により対前年度で見ると医療費が伸びたものと認識している。

(事業主代表)

医療費適正化に資するジェネリック医薬品について、国保は以前使用割合がかなり低かったが、徐々に上がってきたと聞いている。国保と協会けんぽの使用割合で差異はあるか。また、使用割合

が最近伸びない要因は何か。

(事務局)

山梨支部も以前は全国で下位の方であったが、県や薬剤師会と連携した取り組み等を行い、現在は30位前後の位置で推移している。しかし、国の目標である80%を超えてからは伸びが鈍化しているのが現状である。また、県の衛生薬務課との話の中で、若年者層の使用割合が低いことと、花粉症の時期に処方量の多いアレルギー用薬の使用割合が下がるという課題については、山梨支部と共通している。

(学識経験者代表)

令和2年度に医療費が下がり、令和3年度、4年度の伸びが急激に上がっているのは、コロナ感染症の要因以外に何か考えられるか。

(事務局)

受診控えがなくてもそのまま右肩上がりに伸びていたと考えられるが、コロナ感染症に対する医療費が上乗せされていることも急激な伸びに影響していると思われる。

(被保険者代表)

医療費の伸びが賃金の伸びを上回っている赤字構造が令和4年度の決算に反映されているのか。

(事務局)

医療費は保険給付費、賃金は保険料収入として決算に組み込まれるが、今回、収入が支出を大きく上回ったのは、後期高齢者支援金に多額の戻り分があったため、支出の伸びが抑えられたことによるものである。

(学識経験者代表)

医療費の伸びが賃金の伸びを上回ることを「赤字構造」と表現することに違和感がある。

議題2. 令和4年度山梨支部事業実施結果について

資料4に基づき事務局より説明。

(被保険者代表)

医療費の伸びの順位とインセンティブの順位を比べると相関性がないように見える。

(事務局)

加入者及び事業主の行動を変えていくことにより、医療費を適正化していくことがインセンティブ制度の目的でもあるが、健診受診率や保健指導実施率が上がったとしても、すぐに医療費には反映されない。

(事業主代表)

透析患者になると多額の医療費がかかるため、重症化予防の事業は重要であると思うが、山梨支

部には透析患者がどのくらいいるのか。また、全国的に見て多いのか少ないのか。

(事務局)

重症化予防については、県医師会と連携しながら進めていきたいと考えている。透析患者数等についてはデータを持ち合わせていないため後日回答させていただく。

→令和4年度に新たに透析患者となった加入者は25名であった。また、1か月の間に透析を受けた加入者は約270～280名^{*}であった。(※ 特定疾病療養受給者証により受診した患者数)

(事業主代表)

ジェネリック医薬品の使用については、薬をもらう側よりも提供する側の意識を変えていく必要があると感じる。医療機関や薬局によって使用割合が高いところと低いところがある違いは何か。

(事務局)

一般名処方割合の差が理由の一つと考えている。そのため、今年度は一般名処方割合が低くジェネリック医薬品使用割合が低い医療機関と一般名処方割合が高いにもかかわらずジェネリック医薬品使用割合が低い薬局にターゲットを絞り、厚生局山梨事務所長との連名文書により情報提供を行うことで使用割合を高めていく。

(学識経験者代表)

健康宣言をしている事業所の健診受診率・特定保健指導実施率は、健康宣言をしていない事業所と比べて高いのか。また、現在の宣言事業所数の割合はどのくらいか。

(事務局)

健診受診率・特定保健指導実施率は高い傾向にある。山梨支部の加入事業所数が約16,000社ある中の682社なので、事業所数全体に対しての割合としては低いが、従業員数の多い事業所のほとんどは宣言していただいているので、被保険者数の観点からすると、割合としては高いと感じている。

議題3. 運営委員会等の報告について

資料5に基づき事務局より説明。

特になし

議題4. その他

次回の開催予定(令和5年10月予定)を説明。

(学識経験者代表)

リフィル処方箋の発行が医療費の削減につながると聞いているが、協会けんぽではリフィル処方箋に関する事業を行っているのか。

(事務局)

加入者等への広報のみに留まっている。

(学識経験者代表)

山梨支部では、マイナンバー関連のトラブルや被保険者に不利益があったという報告はあるか。
また、支部の業務に影響が出ているか。

(事務局)

特段、トラブルがあったという話は聞いていない。また、支部の業務に支障は生じていない。

特記事項

傍聴者1名